医学部整形外科学講座（膝関節外科及び下肢外傷外科）の臨床教授を拝命して

医学部 整形外科学　臨床教授
早川 和恵（12回生）

2025年2月1日付けで整形外科の臨床教授を拝命しました早川和恵と申します。これも一重に藤田順之主任教授のご尽力そして多くの諸先輩、後輩先生方のおかげと、心より感謝申し上げます。大変光栄なことであり、身の引き締まる思いでおります。

静岡県立掛川西高等学校を卒業後、1983（昭和58）年本学に入学しました。テニス部に所属し、外科医の娘として育った生い立ちと、生来の負けず嫌いな性格から、手術を通じて患者に寄り添える医師になることを目標として、1989（平成元）年整形外科に入局しました。当時の医学界は男性優位の風潮が強く、体力、身体的負担、時間的制約を強いられる整形外科を女性が専門職とすることは稀で、周囲からの期待も薄い雰囲気を感じ取っていました。それでも私は手術と治療を通じて、患者が回復していく様子を近くで感じられることに生きがいを覚え、キャリアは中断しないことを目標にしました。女性が仕事を続けることにはブレーキが利きがちですが、私は家族の理解の下、出産・育児を4回経験しながら、藤田一筋36年間勤続してきました。

学位は吉澤英造先生のご指導により、後縦靭帯骨化症のテーマで取得しました。以降経験を積み、現在、日本整形外科学会の専門医、スポーツ医、リウマチ医、運動器リハビリテーション医、日本リウマチ学会の専門医、指導医、登録医、日本人工関節学会認定医、日本関節病学会認定医、日本足の外科学会認定医を取得しています。

1997年からは中川研二先生のもとで膝リウマチ班に所属しました。出産・育児との両立が難しい時期でしたが、透視を浴びずに済む専門領域で予定手術がメインであるため勤務を継続し、特に人工膝関節置換術（TKA）と学術活動についてご指導いただきました。2007年からは、同班のチーフとして膝関節疾患、下肢外傷、足関節足部疾患、リウマチ診療に携わっています。

当科では1986年以降、TKAは約3400件施行され、私は約1700件執刀しました。2020年9月、藤田順之教授のご尽力により、当科に日本初となる手術支援ロボットROSAが導入されました。チーフとして試行錯誤を繰り返しながら2023年以降は全例に使用し、これまで800件以上に実施してきました。学会発表は316報（うち筆頭演者として154回）行ってきましたが、これまでに主要学会のシンポジウム/パネルディスカッションでROSAの成果を8回発表しました。当科がロボットを用いたTKA分野では、日本の先駆的立場にあることを実感しています。またTKAに関する前向き臨床研究は11件行い、ROSAを用いた手術の有効性や患者満足度など様々な面から研究をしています。

私のこだわりは臨床でのフットワークの軽さです。経験上外傷などの救急医療にも積極的に携わっています。例えば、当科の伝統的手技であるエンダー法は、下腿骨と小児に対しては特に有効な手技だと考えており、後輩の先生方にも継承しています。

今後は、本学を支える一員として、初心に立ち返りながら後進育成のため、学術活動・臨床・研究に励みたいです。また、私が培ってきた手技のハウツーを後進育成に活かし、藤田医科大学の発展に尽力したいと考えています。先日、当大学の学費引き下げが公表されました。意欲に溢れる優秀な人材育成の一翼を担う立場として、襟を正して教育活動に勤しみます。

最後に、これまで支えてくださったすべての皆さまに改めて深く感謝申し上げます。

未熟ではございますが、今後とも皆さまとともに歩んでまいりたいと存じます。引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

藤田医科大学 総合診療科 教授就任のご挨拶

医学部 総合診療科　教授
大杉 泰弘（27回生）

このたび、2025年4月1日付で藤田医科大学 医学部 総合診療科　教授を拝命いたしました大杉泰弘（2004年卒）と申します。この場をお借りして、母校の諸先輩・同窓の皆様にご報告申し上げます。

私は2004年に藤田保健衛生大学（現・藤田医科大学）を卒業後、初期研修を経て、2006年より福岡県の飯塚病院総合診療科に所属しました。飯塚病院は、地域医療の中核病院でありながら、高度急性期医療と教育体制が整ったユニークな医療機関です。ここでの9年間は、まさに総合診療医としての土台を築いた期間であり、急性期から慢性期、在宅医療に至るまで幅広い診療と、後進の育成に携わる機会に恵まれました。また、ここでは母校の先輩でもある総合診療科部長の井村洋先生に師事することができたことも私にとって大切な時間となりました。

2015年からは地元愛知県に拠点を移し、また母校の豊田市・藤田医科大学連携地域医療学講座において、講師として勤務してまいりました。本学における総合診療医の育成を開始し、また、地域包括ケアや在宅医療、そして地域に根ざした教育・研究活動に取り組むとともに、若手医師が地域で力を発揮できる仕組みづくりに尽力してきました。

2018年に総合診療専門医制度がスタートし、総合診療医の専門性が明確に位置づけられるようになりました。この制度は、総合診療という専門領域の認知を社会的に高める重要な転機であり、私自身もその理念の現場実装に携わってまいりました。制度が始まって6年が経過し、今まさに「制度を活かしてどのように次世代の人材を育てるか」が問われていると感じています。

こうした中で、総合診療科の設立は大きな節目となりました。藤田医科大学は、全国的にも早期から総合診療や家庭医療の教育に力を入れてきた大学の一つであり、今後、専門医制度を支える基幹機関として、大きな役割を果たすことを目指していきたく、教育・研究・臨床の三本柱を総合的に推進し、制度と地域医療の両方を支える大学としての責務を果たしていきたいと考えております。

また、総合診療の発展には、医療現場での実践に加え、社会全体への理解と認知度の向上が不可欠であると考えています。私は2023年5月、日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の大会長を務める機会をいただき、全国の医療従事者とともに、総合診療の価値と未来を社会に向けて発信することができました。

さらに、同学会の広報委員長としては、動画やSNS、ウェブサイトを通じた戦略的な情報発信にも力を注いできました。2024年には、学会公式YouTubeチャンネルが「YouTube Health」の認証を取得し、信頼性の高い医療情報を、より広く、より分かりやすく届けるための基盤が整いました。これらの取り組みを通じて、総合診療という専門領域の「見える化」を図り、社会との接点を築くことができたと感じています。

これからは、学生・専攻医・指導医それぞれの成長段階に応じた総合診療医の教育体制の整備、臨床に裏打ちされた学術基盤の構築、そして地域の現場と大学の知を結ぶ実践的な研究活動に力を注ぐ所存です。全国の総合診療医の皆様と協力しながら、「これからの総合診療」を支える土台を築いていきたいと考えております。

最後になりますが、母校の地に縁をいただいたことに心より感謝するとともに、これまで支えてくださった多くの先生方、仲間、地域の皆様に深く御礼申し上げます。今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年日本プライマリ・ケア連合学会学術大会の大会長時

2024年10周年ホームカミングデー井野教授浅井教授退官記念祝賀会時